

# 群馬教師塾 地歴班 授業実践のまとめ

高校地歴班 県立高崎北高校 奥野徳子

## 授業実践のテーマ

「生徒が考え、気づき、充実感を得られるような発問の工夫」

### テーマの設定理由

「歴史は教師が一方向的にしゃべり、事実を覚えるだけのつまらない暗記教科」を脱出するために、資料を活用し、発問を工夫することによって、生徒自身の思考を促したいと考えた。そうした思考活動を通して、新しいこと、今の自分たちの生活とのつながりに気づき、歴史学習に充実感が得られるようにしたいと思い、このテーマを設定した。

### 授業実践の例

『鉱山で働かされるインディオ』の絵から、先住民のどのような状況が読み取れるか？

全く何も書けずにいた生徒（数名）に話しかけると、「何をどうしたらよいのか、さっぱり分からない」と返事をしてくれた。改めて「見れば分かるだろう」という自分の配慮の無さを実感した。すぐに読み取りができない生徒に対し、“どんな人が描かれているか。” “その人達は何をしているのか。” “場所や時代や時間は？”などと具体的な読み取りの視点を示す必要があることを学んだ。

教p82・資p135を見て、アメリカ大陸原産の食料をあげ、それらが、今日のどの地域に深く根付いているかも調べてみよう。

- 食料( )…地域( )
- 食料( )…地域( )

前回・今回の学習「ヨーロッパ人のアメリカ大陸発見と支配」から、何を感じましたか？考えましたか？

全員の生徒が、何らかの感想を記していた。ヨーロッパ人を残酷な人と見る生徒、ヨーロッパ人のおかげでアメリカ大陸の食料などを今自分が食することができると思う生徒、アメリカ古代文明の滅亡を悲しむ生徒など、私が想像していた以上にさまざまな視点からの感想を生徒は記してくれた。多面的・多角的に歴史的な事象をとらえられるような発問を常に意識して行く必要があると考えた。また最後に、歴史的な事象には多様な面があることに気付くために、自分とは違う友人の見方を知ることができるよう提示することも大事だと感じた。

<生徒（77人）へのアンケート結果（一部）>

問1：「考える」ことは授業内容の理解に役立ちましたか。 無回答（1人）

ア：役立った（56人） イ：変わらない（20人） ウ：役立たなかった（0人）

問2：高校で世界史を学び、生活の中で変化したことがありますか。

- ・ニュースやTV番組、映画や本が理解でき嬉しかった、さらに関心を持つようになった。（30人）
- ・世界史の学習が意外に面白く、もっと知りたくなった。（16人）
- ・知識が増え、視野が広がった。（14人）
- ・歴史が“今”を形成し、自分達と繋がっていることを感じた。（7人）
- ・日本と比較したり、ヨーロッパを見る目が変わった。また、自分たちがどう見られているのかも気になるようになった。（5人）

担当指導主事 高校教育グループ 榎本 功